

令和六年度

中学校入学試験問題

国語

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
試験開始までの間、この注意事項をよく読んでください。
- 二、この問題冊子は13ページです。
- 三、この問題冊子や解答用紙に印刷が悪くて見にくいところや汚れなどのある場合は、手をあげて監督かんとくの先生に知らせてください。
- 四、答えはすべて別紙の解答用紙に書き、記号で答えられるものは、すべて記号で答えなさい。
答えを文中からぬき出す場合は、「、」「。」「」などの記号も一字分に数えなさい。
- 五、解答用紙の受験番号、氏名を記入する欄らんは用紙の最後にあります。最初に記入しなさい。
- 六、試験終了後は解答用紙のみを提出し、問題冊子はそれぞれ持ち帰ってください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「科学的」と言うとき、私たちはそこに、客観的で揺るぎないものがある、というイメージを持ちます。学校でも、理科が好きなのは「答えが一つに決まるから」「理屈で考えられるから」という理由をあげます。しかし、^①そうした科学への信頼を利用して人を信じ込ませようとする人たちもいます。代表的なものが「疑似科学」です。

「疑似」とは「似ているけど違う」という意味で、「ニセ」と言い換えてもいいかもしれません。「科学もどき」と呼んでもいいでしょう。

科学的な手法で証明されたように見えますが、よく検討すると科学的根拠がないもの、あやしい仮説に科学者が^②を与えてそれらしく見せているものなどがあり、科学に詳しくない人にとっては、見分けるのがやっかいです。

二〇年ほど前、『水からの伝言』というタイトルの写真集がベストセラーになりました。各地の水道水や湖の水を凍らせ、できた氷の結晶をカラー写真で紹介したものです。

日本で初めて雪を人工的に作ることに成功した物理学者の中谷宇吉郎が「雪は天から送られた手紙」（『雪』、岩波文庫）という言葉を残したように、雪や氷の結晶が見せる表情はどこか神秘的で、眺めるだけでも心がいやされるものです。

さて、この写真集は「水は言葉を理解する」という仮説に基づいています。その主張や実証方法に私は当初から違和感を覚えたのですが、まずは彼らの手法を紹介します。

透明な瓶に水をいれ、日本語で「ありがとう」と書いた紙を瓶の内側に向けて張ります。しばらくして瓶の中の水のしずくをガラス板の上に

垂らして凍らせます。すると、きれいな結晶ができます。

いつぼう、「ばかやろう」とか「ムカツク」「死ぬ」といった否定的な言葉を書いた紙を張った瓶の中の水は、結晶にならなかったり、整っていない結晶になったりするといわれています。

英語やハンブルなどの外国語で試した実験でも、同様の結果が得られたそうです。

言葉ではなく、さまざまな音楽を「聴かせた」^④水を凍らせてみる実験も紹介されています。クラシック音楽や仏教のお経では、きれいな結晶になり、悲しい歌詞の民謡や、攻撃的な歌詞とリズムが特徴のヘビメタル音楽は、結晶ができない、という結果が紹介されています。

水が文字を認識し、意味を理解する能力を持っている、ということだけでなく、天地がひっくり返るような発見ですが、聴覚まであるとは初耳です。あとがきには「ひとりよがりの本になるのではなく、みなさんからご意見をいただいて、この研究を科学的、哲学的な意味合いに引き上げていく方向に向かうことを願っています」と著者のコメントがあります。

みなさんはどう受け止めましたか。カガク力が少々身についた私からすれば、これは典型的な疑似科学です。

そう結論付ける理由を説明する前に、^⑤科学のお作法について理解しておく必要があります。ここでは、有名な「万有引力の発見」を例に説明しましょう。

イギリスの科学者にアイザック・ニュートンがいます。「ニュートンのリング」のエピソードで知っている人も多いでしょう。一六六五年、すべての物体がお互いに引っ張りあっている、とする「万有引力の法

則」を発見しました。いまなおイギリス人が尊敬する有名人ベスト10に入ってくる偉人です。

熟したリンゴの実が枝から落ちるのも、うっかり手を滑らせたコップが床に落ちるのも、経験的には同じ現象です。ニュートンはこうした観察から「全ての物質には地球の引力が働いている」と考えました。

ニュートンはさらに「引力が存在するならば、地球の周りを回っている月はなぜ落ちてこない？」という謎にも取り組みました。考え続けた結果、「月も地球の引力に支配されている。だから地球から離れず、周りを回り続けるのだ」という結論に至り、この現象を説明する単純な公式を考え出しました。

距離こそ違え、月もリンゴも地球の引力の作用を受け、同じ法則で運動しているというニュートンの発見は画期的なものでした。彼は成果を『プリンキピア』という書物にまとめ、世に問います。太陽の周りを回っている惑星の振る舞いにも、この法則はびたりと当てはまり、その後の科学の発展を支えました。

このように観察から仮説を導き、その仮説を第三者によって検証し、正しさを確かめる。仮説通りにならないければ再考を重ねてより確かなものへと鍛えていく、それが科学です。

(中 略)

さて、「水からの伝言」は、表向きは「実験」の体裁を取っています。が、さまざまな点で科学的とは言えません。

まず、「水が言葉を理解する」という、常識を超えた仮説に基づいていることに注意が必要です。突飛な仮説であればあるほど慎重な検証が必要ですが、この写真集では、仮説通りになった事例だけが紹介され、「どのように言葉を理解するのか」という、最も知りたいメカニズムに

ついてまったく言及していないことに疑問を感じます。また、⑦ も不可能です。

「再現性」は、科学のプロセスではとても大切なことです。誰がやっても、どこでやっても、同じ方法なら同じ結果が出ることを意味します。たとえば、「水が言葉を理解する」という仮説に興味を持った人物が、自分の実験室で実験をくり返したとしましょう。「ありがたい」の文字を「見せた」水を一〇〇回凍らせて、きれいな（というのも判断が難しいですが）結晶になった回数が五〇回、そうではない回数が五〇回だった、という結果を得たとしても、実験手法が公開されていなければ、仮説の提唱者は「それは実験のやり方がまずいからだ。私は一〇〇回やって一〇〇回、きれいな結晶をつくれる」と言い逃れることができます。「誰がやっても、同じ条件ならば同じ結果がでる」という原則が守られていない以上、科学的な議論ができませんのです。

この状態を、科学の世界では「反証可能性がない」と言います。これも、科学と疑似科学を見分ける大切なポイントです。「誰かが主張する仮説を反証できるとき、それは科学である」。言い換えると、「第三者が追試して反証できるだけの材料を提唱者が提示しないとき、その行為や成果は科学とは呼べない」ということです。

こうして、長い時間をかけて、本人以外の多くの人が検証し、「ウソではない」と合意された知識の集まりが科学です。「観察する」↓ 仮説を立てる ↓ 結果を予測し、実験をする ↓ 成功、失敗を含め結果を公表する ↓ 第三者によって追試され、議論される（検証）という作業のくり返しによって、科学は精度を高めていきます。

(中 略)

⑧ 「オッカムの剃刀」という言葉があります。一四世紀の哲学者、オッカムが残した言葉で、「ある事柄を説明するためには、必要以上に多くを仮定すべきではない」というものです。言い換えると「たくさんの仮定が必要な理屈は、屁理屈とみなせる」ということでしょうか。そういうえば、くり返し検証され確からしさを増した科学の法則は、往々にして単純明快です。

一方、「水からの伝言」に置き換えて考えてみると、「水は言葉を理解する」という仮説を認めるために、かなり無理のある仮定（水には目や耳に代わる感覚器がある）を受け入れなければなりません。そこが面白いので「ありがとう」ではなく「サンキュー」は分かるのか」「善悪をどう判断するのか」「音楽が分かるのか」など、つつこみどころが満載なのです。

⑨ 疑似科学の代表としてUFO（未確認飛行物体）が宇宙人の乗り物であるとする説があります。こちらも、先ほど説明した疑似科学の特徴があてはまりますね。

⑩ 皮肉なことにこの写真集は、外国語に翻訳されて人気を呼びました。もう一つ「心配だな」と思ったことがありました。学校の道德の授業でこの仮説が紹介されたと聞いたからです。授業では、「人間の体の七割は水、これは科学的な事実です。この本で実験が示したように、水は言葉を理解します。だから友達に悪口を言うとき体の水が汚れます」と教えられたといえます。

「水は言葉を理解する」という、実証されていない仮説が、科学的な事実のように先生から生徒に伝えられれば、誤解される恐れがあります。そもそも「友達に悪いことを投げつけるな」ということを教えるのに、

科学を持ち出す必要はないでしょう。

さらにこれを利用したビジネスも広がりました。「お宅の水が汚れているかどうかを判定してあげます」と持ちかけ、悪い結果を示して高額な浄水器を売りつける手法です。こういう業者にお金をだましとられたいためには、

⑪

カガク力が必要です。

「水からの伝言」を批判する記事を書いたら、反響が来ました。「知り合いが似た商法に巻き込まれて損をした」というものもあれば、「これを疑似科学というなら、水が言葉を理解しないことを証明すべきだ」という反論もありました。

疑似科学を信じる人からの代表的な反論は、「批判するならニセモノであることを証明しろ」というものですが、証明の責任は、提唱する側にあります。本人たちが、万人を説得できるデータやメカニズムを示さない限り、第三者が検証することは不可能です。

「反証できるものが科学である」。このことを知っていれば、これから疑似科学に出会っても、胸を張って「いいえ、私は信じません」と言えるはずですよ。

（元村有希子「カガク力を強くする！」より）

※設問の都合上、原本にある図は省略した。

*1 『プリンキピア』……ニュートンが著した物理学書『自然哲学の数学的諸原理』の略称。

*2 メカニズム……仕組み。

*3 言及……その事柄にふれること。話題にすること。

*4 プロセス……物事を進めるうえで手順やその過程のこと。

*5 反証……ある主張が正しくないことを証明すること、またその証拠。

* 6 追試……他人が行った実験などをあとからその通りにやってみて確かめること。

問三 ——— ③の写真集について、筆者はどのように考えているか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

問一 ——— ①とあるが、「科学」を「信頼」するとはどういうことか。

それを説明する文章として正しくなるように、空欄に入れる適切な語句を文中から十五字程度でぬき出して答えなさい。

人々が、科学とは「———」と考えること。

問二 ——— ②に入るのに最も適切な語句を次から一つ選びなさい。

ア、太鼓判 イ、お墨付き ウ、空手形 エ、引導

問四 ——— ④に「———」(かぎかっこ)が付けられている理由として、最も適切なものを次から一つ選びなさい。

問四 ——— ④に「———」(かぎかっこ)が付けられている理由として、最も適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア、雪や氷の結晶の神秘的な美しさを見事にとらえた写真集であり、科学万能の世の中に疲れた人々の心をいやしてくれる。
- イ、新しい学説を紹介しているものの、科学的・哲学的な意味合いが今のところ弱いため、今後研究を重ねていく必要がある。
- ウ、結晶の作られ方について天地がひっくり返るほどの大発見を紹介しており、世界中の人々の注目を集めるだけの魅力がある。
- エ、科学的であるかのような実験を紹介しているが、主張自体は科学的な根拠に乏しく、内容を疑ってかかるべきものである。
- ア、水に音楽を聴かせるという実験の手法や結果だけでなく、水に聴覚があるという前提自体に無理があることを示すため。
- イ、水に音楽を聴かせるという、これまで誰も考え付かなかった斬新な発想に基づく実験への強い感動を表すため。
- ウ、水が聴覚を持つていたという事に加え、音楽を聴き分けることまでできたという新たな事実への驚きを強調するため。
- エ、クラシックやお経は良く、民謡やヘビーメタルはだめだという実験結果に不満の思いがあることを伝えるため。

問五 ――⑤とあるが、ニュートンの「万有引力の発見」における「科学のお作法」をまとめた部分を、本文から三十五字以内でぬき出し、その初めと終わりの五字を答えなさい。

問六 ――⑥「画期的」の読みを書きなさい。

問七 本文の内容を踏まえ、⑦に入るのに最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、論文の形で実験手法が紹介されていないため、第三者が同じ実験をして再現すること

イ、誰にでもできる簡単な実験手法ではないため、科学の知識のない人が再現実験をすること

ウ、写真集という形で世に出されたものであるため、実験の結果に著者が責任を持つこと

エ、仮説の提唱者が実験に必要な材料を提示していないため、再現性について議論すること

問八 ――⑧とあるが、筆者はどのようなことを伝えるために「オッカムの剃刀」という言葉を紹介したと考えられるか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、確かなことを言っている科学の法則は単純明快であり、理解に苦しむような仮定は必要としないということ。

イ、新しい仮説にはたくさんの方定を必要としており、その仮定を一つずつそぎ落とすことで確かさを増すということ。

ウ、科学の法則には理解が困難なものもたくさんあり、つつこみどころをなくすために単純化が必要であるということ。

エ、正しくない仮説は科学の発展を遅らせるので、理解するのに無理がある内容ならば受け入れる必要はないということ。

問九 — ⑨について、以下はUFO（未確認飛行物体）についての
記事である。

「未確認飛行物体・空飛ぶ円盤（IIフライング・ソーサー）」

一九四七年六月二十四日、午後三時頃。

アメリカ人実業家のケネス・アーノルド氏は、太平洋岸北西部を
自家用機で飛行中、ワシントン州にあるレーニア山の上空で、およ
そ時速二〇〇キロ（マッハ2）で飛行する「青白く光る九つの物
体」と遭遇した。それらは円盤（小皿IIソーサー）が跳ねながら飛
んでいくようであった。

円盤の形状をした飛行機などなく、また当時、マッハ1.5以上の
飛行が可能な飛行機も開発されていなかった。

この事件をきっかけに、やがて、「空飛ぶ円盤」は宇宙人の乗り
物である、という見方が広がった。

右の記事を読んだ四名の人物が、それぞれ考えたことを述べてい
る。発言の内容が「疑似科学」であるものを一つ選び、その発言者
の名前を答えなさい。

Aさん

「飛行する九つの物体が、ほんとうに乗り物であったと言えるの
かどうか。いん石との見間違いや、単なる自然現象であったかも
しれない。その物体を実際に調べることできたらいいんだけ
ど。」

Bさん

「大気中で物体が加速すると、空気との激しい摩擦で熱を帯びて
発火する、ということがわかってる。今の時代ならマッハ6以
上で飛べる飛行機もあるから、青白く光っていた原因を明らかに
することができるのではないかな。」

Cさん

「当時はマッハ2で飛ぶ飛行機も円盤状の飛行機も開発されてい
ない。地球上に存在しない物体なのだから、当然宇宙からきたも
のであり宇宙人の乗り物である、と言っていいだろう。」

Dさん

「この記事にある物体が宇宙人の乗り物であると言うためには、
地球上の生物とは明らかに異なるものがそれを操縦していた、と
いうことをはっきり証明する必要があるね。」

問十 ― ⑩とあるが、どのようなことが「心配」であるのか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア、友達に悪口を言うことで、子どもたちの体の中の水が汚れてしまい、健康を害してしまうこと。
- イ、生徒に道徳心を身につけさせるために、学校の先生が科学的な知識まで持ち出していること。
- ウ、生徒たちが、科学的とは言えない内容を学校の先生から聞くことで、科学的だと信じこんでしまうこと。
- エ、教育の現場が、科学をきちんと教えずに、感情的な言葉で生徒に接するようになってしまうこと。

問十一 ⑪ に入るのに最も適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア、何度も実験し、確信を得る意志
- イ、自分で考え、自分を貫く信念
- ウ、反証し、正解を導き出す感性
- エ、正しく疑い、反論する知恵

問十二 本文の内容を説明した文章として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア、日常では聞き慣れない「疑似科学」という言葉の意味について、中谷宇吉郎やアイザック・ニュートンといった歴史上有名な物理学者の実験を例に挙げてわかりやすく説明している。
- イ、『水からの伝言』という写真集を疑似科学の具体例として示すことよって、疑似科学のもつ特徴と、それを信じることによる人々への悪影響について読者に理解を促している。
- ウ、初めに『水からの伝言』を紹介して読者の興味を引き、次にニュートンのリンゴやUFOを例に科学と疑似科学との共通点や相違点について述べ、最後に教育問題について論じている。
- エ、「観察」↓ 仮説を立てる ↓ 実験結果の公表 ↓ 第三者による検証」という科学のプロセスを疑うことは、疑似科学を反証し論破するために必要な科学の力であると主張している。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

委員会を途中^{とちゆう}で抜^ぬけた日の夜、可奈子^{かなこ}ちゃんから連絡^{れんらく}が来て、委員会のグルー^{*1}プに招待された。【入^いっという】可奈子ちゃんからのメッセージはそれだけで、私は【可奈子ちゃんだけ委員会に残^{のこ}しちゃってごめんね、ありがとう】と返した。可奈子ちゃんからの返信はなかった。私以外の実行委員のメンバーは、あの委員会の日にその場で連絡先を教え合^あったらしい。

黒板の写真の端^{はし}のほうには、小栗^{おぐり}くんが写^{うつ}っていた。遠近法^{えんきんぱう}を使って、黒板に書いてある文字を食べているように見せたかったらしいが、なんだかよくわからないことになってしまっている。委員会のタイ^{*2}ムラインは、その写真に対して【真^まじ、スベってんなー】とか、そういうツッコミを入れられるようなほんの数人で成立^{せいりつ}していた。だけど、会話^{かいわ}に入^いれなくな^なって、小栗^{おぐり}くんのア^{*3}カウ^ント名^なが「ス^スモ^ルマ^ロン」で、アイ^{*4}コンの写真^{しやうしん}が食べ^たかけのモン^ブラン^とい^うこ^とを^しる^こと^がで^きた^だけ^で、私^{わたし}はラ^ッキ^ーだ^と思^った。

①だから、油断^{ゆだん}していた。

【美化^{びか}係^{けい}よろしく】

小栗^{おぐり}くんが、グルー^プのタイ^ムライン^では^なく、私^{わたし}個人^{こじん}にメ^ッセ^ージ^を送^って^くる^んだ^んて、全^く考^えて^いな^かっ^た。

黒板^{こくばん}の写^{しやう}真^{しん}をよく見^みると、美化^{びか}係^{けい}の担^{たん}当^{とう}にな^った^のは、私^{わたし}のク^ラス^と小栗^{おぐり}く^んのク^ラス^の委^い員^{いん}計^{けい}四^し名^{めい}だ^った[。]ど^うし^てそ^の四^し人^{にん}のグ^ルー^プを^しる^わけ^でも^なく私^{わたし}宛^{あて}なん^だら^う、と^しい^つつ^も、【よ^ろし^くお^願い^します】と^かえ^すと、【す^げー俺^{おれ}サ^ボリ癖^{くせ}あ^るけ^どご^めん^ね】と^かえ^すが^来た[。]

【私^{わたし}も^だか^ら大^だい^じょう^ぶ夫^ぶ】と^かえ^すと、【ぶ^ひぶ^ひ】と^いう^かえ^し事^じと^とも^に、ブ^タ

がOK^{*5}マ^ーク^を作^つっ^てい^るの^かど^うか^よく^わか^らな^いや^りと^りが^展開^{てい}さ^れる^ポー^ルが^成立^てし^てい^るの^かど^うか^よく^わか^らな^いや^りと^りが^展開^{てい}さ^れる^と、ぶ^つん^とど^こか^で会^わい^した^話が^切れ^てし^まう^こと^もな^かっ^た。

【早^{はや}狩^{かり}さん^んつ^て紗^さ衣^えと^同じ^クラ^スだ^よね】

【うん。そ^うだ^よ】

【よ^つし^ゃ、ぶ^つち^ゃけ、あ^いつ^つて^クラ^スで^はど^んな^感じ^なの[?]】

【ど^んな^感じ^しつ^て言^われ^ても……私^{わたし}、そ^んな^に話^さな^いか^ら】

【ら^めえ^ー、そ^んな^こと^を言^わな^いで^教え^てえ^ー】

【でも、ほ^んと^にそ^うだ^から。可^{かな}子^{ちゃん}の^ほう^がよ^く知^つて^ると^思う[、]紗^さ衣^{ちゃん}の^こと】

【ど^りあ^えず、あ^いつ、な^んか^ちよ^つと^女王^{じやう}つ^ぽす^ぎね[?]】

【私^{わたし}は^あん^まり^わか^ない^かも……人^によ^つて^はそ^う見^える^かも^しれ^ない^けど】

【ど^っひ^ゃあ^ー】

や^りと^りす^るう^ちに、小栗^{おぐり}く^んは、ク^ラス^での紗^さ衣^{ちゃん}の^こと^をよ^く聞^いて^くる^よう^にな^った[。]そ^れは^決し^て、好^きで^たま^らな^い彼^{かの}女^{じよ}の^こと^をも^つと^深く^知り^たい[、]と^いう^文脈^{ぶんま}で^はな^いよ^うな^気が^した[。]

美人^{びじん}だ^し、大^た人^{にん}つ^ぽい^し、友^{とも}達^だが^すご^く多^くて、ク^ラス^のリ^ーダ^ーみ^{たい}な^存在^{ざい}だ^よ——そ^う答^{こた}え^てあ^げる^のは^簡単^{たん}だ^った[。]右^{みぎ}手^ての^いく^つか^の指^{さし}を^数セ^ンチ^ずつ^動か^せば^その^文章^{しやう}を^生み^出す^こと^がで^きる^し、事^じ実^{じつ}、紗^さ衣^{ちゃん}は^美人^{にん}だ^し大^た人^{にん}つ^ぽい^し友^{とも}達^だが^すご^く多^くて^クラ^スの^リー^ダー^みた^いな^存在^{ざい}だ[。]だ^けど^私は^そう^しな^かっ^た。だ^から^とい^って、む^きだ^しの^真実^{まじつ}を^事細^{じゆ}か^に教^{おし}え^るこ^とも^しな^かっ^た。

私^{わたし}は、嘘^{うそ}も^つか^なけ^れば、本^{ほん}当^{とう}の^こと^も言^わな^かっ^た。そ^うし^てい^れば^この^まま、小栗^{おぐり}く^んと、た^まに^ちぐ^はぐ^にも^感じ^られる^メッ^セー^ジの

やりとりを続けられるような気がしていた。

そんな私の狡さを洗い出すように、久しぶりに雨が降った日のことだ。下駄箱に仕舞っていたはずの私の上履きが、なくなっていた。

私は、大きな大きな掌で、心臓を真上から潰されたような気がした。

誰にも言わないで、職員室でスリッパを借りた。四時間目の体育が始まる直前、体育館まで続く渡り廊下の屋根の上に上履きが投げ上げられているのを見つけるまで、私はスリッパのまま過ごしていた。

——可奈子ちゃんかな。

私は、屋根の上にある上履きのかかを見上げながら、遠い天の上からまっすぐにそこを目がけて落ちてくる雨粒を受け止めながら、とても自然にそう思った。なんとなくそんな気がしたし、それで間違いないような気もした。白い絵の具に黒を混ぜたらグレーになる、とか、炒めた豚肉にキムチを混ぜたら豚キムチになる、みたいに、当たり前前Xのことに当たり前のことが重なって起きた現象のような気がした。そして、今日がちょうどあの委員会から一週間、つまり自分*6が早退する曜日だということに感謝した。

教室の中の可奈子ちゃんは、いつもと変わらず、大きな声で笑っていた。それが本当に面白いことなのかはわからなかったけど、誰かの言うことに対して大袈裟おおげさに手を叩いて笑っていた。

「じゃあ、早退します」

五時間目が終わったところで私がそう告げると、先生は「お母さんによろしくねー」と手を振った。結局その日、可奈子ちゃんは最後まで、私の足元を見なかった。

⑤ ビニール傘を差して、両耳にイヤフォンを装着して、通い慣れた道を聴き慣れた音楽で彩る。雨の音も聞こえなければ、冷たさも感じない。

だけどビニール越しに弾ける雨粒の全てが見えてしまうから、一歩踏み出すことにどうしても、屋根の上で雨ざらしになっていた自分の上履きのことを思い出してしまふ。

「バカ……」

可奈子ちゃんに向かつてなのか、自分に向かつてなのか、とりあえず呟いてみた言葉は、雨と雨の間に落ちてすぐに潰れた。

「ドジ、マヌケ……」

可奈子ちゃんとは去年、同じクラスで班も一緒だった。トイレに一緒に行くってほどではないけれど、それなりに仲の良い友達だった。学年が上がってクラスが替わると、少し見た目が派手で、少し声も大きめだった可奈子ちゃんは、紗衣ちゃんたちのグループに目を付けられた。

紗衣ちゃんのグループと可奈子ちゃんは、十メートルくらい離れて見ると、とても仲が良さそうに見えた。だけど、十メートルより近くで見ると、つまり⑦、会話の中身が聞こえてしまふし、紗衣ちゃんたちが可奈子ちゃんにどんなことをしているのかもわかってしまふ。

私はいつしか、可奈子ちゃんと距離を置くようになっていた。

可奈子ちゃんは、「校内でも目立つ存在である紗衣ちゃんのそばにいる」という事実だけを、私に見せつけようと必死だった。何をされても笑っていたし、何を言われても「やめてよー！」という受け答えでそのやりとりを冗談の範疇に引きずり込もうとしていた。新しいクラスで気が合う人を見つけれなかった私は、両耳をイヤフォンで塞ぎ、視界を白いカーテンで覆った。

「死ね、オタンコナス……」

誰に向けるでもない苛立ちいらだちは、ビニール傘を突き破ってどこかへ飛んで行ってくれるほどの力もない。

可奈子ちゃんは、私を許していないのかもしれない。もともとそれくらい離れていたかのような場所で身を潜めて（ひそ）いる私のことを、カーテンの中ですべてを聞き取り、感じ取りながら何もしてこなかった私のことを。それどころか、紗衣ちゃんの彼氏と言葉を交わして浮足立（うきあ）つて私に、紗衣ちゃんたちが持っている何か尖（とが）ったものの行く先を定めさせようとしているのかもしれない。

紗衣ちゃんの彼氏とのやりとりを、暗記してしまうほど何度も何度も読み返している私に。

（朝井リョウ「十七歳の繭」より）

*1 グループ……SNS上で、特定のメンバーだけがメッセージをやりとりする

ことができる場のこと。また、そのメンバーのこと。

*2 タイムライン……SNS上で、メンバー間でのメッセージのやりとりが表

示されている画面のこと。また、やりとりそのもの。

*3 アカウント名……SNS上で個人を表す呼び名のこと。自分自身で好きな

名前を付けることができる。

*4 アイコン……SNS上で個人を表すマークとなる画像のこと。自分自身で

好きな写真やイラストを設定することができる。

*5 スタンプ……SNS上でメッセージを送る時に、言葉の代わりに使われる

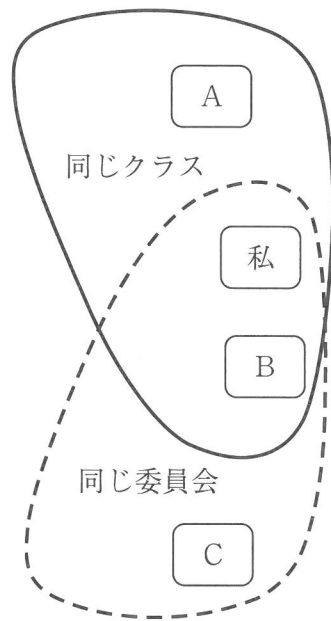
イラスト画像のこと。

*6 自分が早退する曜日……「私」は週に一度学校を早退して、入院中の母親

の病院へ通っている。

*7 範疇（はんちゆう）……同じであると分類・認識される一まとまりのこと。

問一 本文の登場人物の関係を表した次の図のA・B・Cに入る人物名を、それぞれ本文中からぬき出して書きなさい。



問二 ――①とあるが、このときの「私」の心情として、最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、お互い相手に対して関心を持つことも会話をしたこともなかったため、小栗くんと個人的なやりとりをする必要はないはずだと不審に思っている。

イ、SNSで同じグループに入れた嬉しさをかみしめていた時に小栗くんから個人的にメッセージが入り、自分の思いが通じたようだと有頂天になっている。

ウ、これまで接点のなかった小栗くんから個人的にメッセージが届いたことに驚きつつも、彼との交流が突然深まったような気がして喜びを感じている。

エ、小栗くんと個人的なやりとりの始まりに期待を抱く一方、彼の本当の目的に気づいてうっかり真実を話してしまわないようにと緊張している。

問三 ――②とあるが、

(1) 「キャッチボールが成立しているのかどうかよくわからない」様子を表す語を、本文中より五字以内でぬき出して答えなさい。

(2) このような「やりとり」が続いていくのは、小栗くんのメッセージにある特徴があるからである。「私」の言葉の終わりと小栗くんの言葉の始まりに注目し、小栗くんのメッセージの特徴を答えなさい。

問四 ――③とあるが、どういふことか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、指先でリズムをとることで、どんな言葉も編み出していくことができるということ。

イ、ペンを動かし始めさえすれば、嘘の言葉を並べ立てることができるといふこと。

ウ、言葉では表せないことも、身振り手振りがあれば表現することができるということ。

エ、心のこもらない言葉でも、スマートフォン上に打ち出すことができるということ。

問五 — ④「嘘もつかなければ、本当のことも言わなかった」とあるが、

- (1) 「嘘をつくこと」
(2) 「本当のことを言うこと」

とは、ここではそれぞれどういうことか。最も適切なものを次から一つずつ選びなさい。

ア、紗衣ちゃんから嫌がらせをされている、と小栗くん伝えること。

イ、紗衣ちゃんをクラスのリーダーとして評価している、と小栗くん伝えること。

ウ、紗衣ちゃんには逆らえないというクラスの空気がある、と小栗くん伝えること。

エ、紗衣ちゃんに内緒でやりとりを続けていきたい、と小栗くん伝えること。

オ、紗衣ちゃんは悪い子だからだまされてはいけない、と小栗くん伝えること。

カ、紗衣ちゃんのことにはよく知らない、と小栗くん伝えること。

問六 — ⑤とあるが、

- (1) 「私」にとって「イヤフォンを装着」することはどのような意味を持つか。最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、楽しい音楽を聴くことで、落ち込んでしまった気持ちを盛り上げようとする。

イ、好きな曲を聴くことで、いろいろなことに疲れてしまった自分をいやそうとする。

ウ、周囲の音を聞こえなくして、どっちつかずだった自分の意志を固めようとする。

エ、周囲の音が聞こえないことにして、嫌なことから自分の意識を遠ざけようとする。

- (2) 「イヤフォン」と同様の役割を果たしているものを、これより後の本文中から五字前後でぬき出して答えなさい。

問七 — ⑥とあるが、この場面での「目を付けられた」の意味として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

ア、注目された

イ、標的にされた

ウ、無視された

エ、同類にされた

問八 ⑦ に入るのに最もふさわしい語句を次から一つ選びなさい。

- ア、同じ教室の中にいると
- イ、紗衣ちゃんのグループにいると
- ウ、こっそり身を潜めていると
- エ、距離を置かずにいると

問九 || Xとあるが、「当たり前のことに当たり前のことが重なっ

て」とは、|| Yとあるように、「可奈子ちゃん」も「私」も「バカ」な点があり、それが重なったのだと考えられる。

- (1) 可奈子ちゃんのバカな点
 - (2) 「私」のバカな点
- を、それぞれ五十文字以上七十文字以内で答えなさい。

三、次の漢字に関する問いに答えなさい。

- (1) 次の——線部のカタカナを漢字に直した場合、他の三つと異なる漢字になるものを一つ選び記号で答え、その漢字を書きなさい。

- ① ア、シユウ合 イ、シユウ結 ウ、シユウ知 エ、シユウ団
- ② ア、ゲキ流 イ、ゲキ薬 ウ、ゲキ的 エ、ゲキ場
- ③ ア、レン中 イ、レン日 ウ、レン習 エ、レン想

- (2) 次の意味にあてはまる四字熟語を後から選び記号で答え、
 に入る漢字を書きなさい。

□ □

- ① 言葉では言い表せないほど程度がはなはだしく悪いこと。
- ② 数が多くても値段がたいへん安いこと。

ア、有名	□	□
イ、二束	□	□
ウ、言語	□	□
エ、空前	□	□
オ、一挙	□	□

一 問一 客観的に揺るぎないものである。 15

問二 イ 問三 エ 問四 ア 問五 観察から仮に確かめる。

問六 かっきてきて 問七 ア 問八 ア 問九 Cさん

問十 ウ 問十一 エ 問十二 イ

二 問一 A 紗衣ちゃん B. 可奈子ちゃん C 小栗くん 問二 ウ

問三 (1) ちぐはぐ(E) (2) しりとりになっている

問四 エ 問五 (1) イ (2) ウ 問六 (1) エ (2) 白いカーテン

問七 イ 問八 ア

問九 (1) 紗衣ちゃんたちにはいっているのに、何をされてもそこから離れず、グルグルにまわられていっているふりをし、

(2) 可奈子ちゃんたちが紗衣ちゃんたちをからいじめられていたから、いじめられていたふりをしている。 70

三 (1) ① ウ 記号 漢字 周 (2) ② ア 記号 漢字 激 (3) ③ ウ 記号 漢字 練

(2) ① ウ 記号 漢字 道断 ② イ 記号 漢字 三文

受験番号

Blank box for exam number

番

氏名

Blank box for name